

# “飛び道具”は本当に省エネなのか？

富良野視察記事も最終回になった。これまで紹介していない飛び道具をいっぺんに紹介したい。

\* \* \*

## ●第一種熱交換換気

フロア設置型の全熱交換換気が2台、設置されている。当初は2週間に1回、フィルター清掃を行っていたそうだが、いまは1ヵ月に1回。訪問した3人ともに換気不足とは思わなかった。オーナーの維持管理がしっかりしているいい例だった。

## ●エアコン

エアコンは夏場の冷房と、端境期の暖房用に後付けした。冷房用としてはちょっとの使用で涼しくなる断熱のありがたさを実感するそう。また暖房では、それまで6月まで使っていたヒートポンプ温水暖房の使用期間が5月までに短縮されたそう。ただし、暖房についてはパワーの不足も感じるという。この点は石油ストーブとの比較で。

## ●ポータブル石油ストーブ

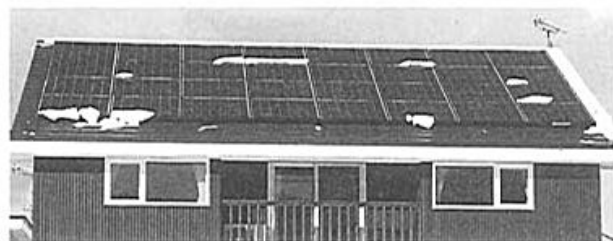
常識的には高気密住宅の室内で開放型燃焼器具を使ってはならない。一酸化炭素濃度の上昇やVOCの排出など、心配事ばかりある。しかしNさんは、「朝晩のちょっとの暖房だから」と昨年秋に購入した。



天井に設置された熱交換換気の点検口を開けると掃除ができる



灯油ストーブがリビングに。いろいろな熱源を使うことは、これからの家のあり方もしれない。評価は分かれると思うが…



2回目のタイトルバックにも使った太陽光発電

まず、心配される結露は、灯油ストーブを使わないときと変わらないレベルだそう。集中換気の効果だろう。ニオイについては個人差があるので断定できないが、気にならないという。なお、Nさんの家は換気不足によるニオイを来訪者であるわれわれも感じないことを付記しておく。

エアコンでは暖気が回らない2階にも灯油ストーブなら暖気が回るそう。「熱源温度が高いストーブを使うと、ドラフトが強く発生するからではないか」とNさん。富良野のように朝晩に気温が急降下する地域では、端境期の暖房にパワーが必要。

電源いらず、持ち運び簡単で、家の暖房として、庭でのパーティ用暖房器として、値段の安さ（ホームセンターで6000円台）を考えれば「使える」とNさん。

## ●HEMS

HEMSも新しい。10万円の補助金をもらい、実質2万円ほどで設置することができた。これについてはまだよく操作方法がわかっていないということだっ

た。家電等の機器別に電力消費をモニターできるなど多機能だが、Nさんがよくわからないなら、一般にはあまりすすめられないかもしれないなど、感じた。HEMSはもっと単純なもので十分いいと思う。

## ●視察を終えて

今回の視察は、総じて「飛び道具」がもとを取るか、という視点ではなく、本当に「飛び道具たり得るのか」という視点で取材した。また取材には建築会社と設計事務所の方にも同行いただいたことで、お互いに深い勉強になった。

Nさんの最初の話に戻るが、省エネを考えるなら、まずは高断熱化の提案、その次にどの飛び道具を提案するかというときに、Nさんのユーザーレビューはものすごく参考になると思う。

## 「飛び道具」一覧

新築時：地中熱ヒートポンプ、エコキュート給湯、第一種熱交換換気  
後付け：太陽光発電、暖房用エアコン、HEMS、ポータブル石油ストーブ